

*** 記 事 ***

お知らせ

第十一回東アジア科学史国際会議

表記の The 11th International Conference on the History of Science in East Asia (11th ICHSEA) が来年の二〇〇五年八月一五日から二〇日の期間、ドイツ・ミュンヘンにて開催予定で現在、発表者を募集している。テーマは①東アジアにおける科学技術史と医学史、②東アジアと西洋における科学技術と医学の比較史。③東アジアと「西洋」における科学技術と医学の文化的背景に関する法的・社会的・論理的問題ほか。

本会議の第一報全文が以下のインターネットURLに掲示されているので、参照されたい。

<http://www.dcgm.de/service/isleasstm2005/>

連絡先は Dr. Florian Mildenberger, Institute for the History of Medicine, Munich University, Lessingstr. 2 D-80336 Munich Germany.
Eメール sekretariat.igm@lrz.uni-muenchen.de

(真柳 誠)

例会記録

平成十五年十二月例会 (日本薬史学会・日本獣医史学会と合同)

平成十五年十二月二十日

順天堂大学医学部十号館一〇五カンファレンスルーム

一、ヒューマン・アニマル・ボンド (HAB) の歴史

加藤 元

一、プラセボ今昔物語

津谷喜一郎

一、蘭方内科草創期の薬用植物研究

遠藤 正治

一月例会 平成十六年一月二十四日

順天堂大学医学部十号館四〇三カンファレンスルーム

一、『本草品彙精要』巻二について

肖 永芝

一、齋藤茂吉・断種法史上の人びと (七)

岡田 靖雄

三月例会 平成十六年三月二十七日

順天堂大学医学部十号館四〇三カンファレンスルーム

一、野口英世の済生学舎在学中の「ペスト菌・顕微鏡標本箱」

について―原玄一郎医師の遺品寄贈を

唐沢 信安

一、病院歯科の軌跡

榎原悠紀田郎

四月例会 平成十六年四月二十四日

順天堂大学医学部八号館一階三番教室

一、中国古代中世における逐月胎児説の変化

鈴木 千春

一、中日における挿絵のある医学書を語る

郭 秀梅

一、相州小田原藩医・市川氏と市河氏

中西 淳朗

例会抄録

呉 秀三・榎田五郎 『精神病者私宅監置ノ實況及び

其統計的觀察』精読

橋本 明

いまどきの精神医療関係者の多くは、呉 秀三・榎田五郎の『精神病者私宅監置ノ實況及び其統計的觀察』（一九一八年）を、「我那十何万ノ精神病者ハ実ニ此病ヲ受ケタルノ不幸ノ外ニ、此邦ニ生レタルノ不幸ヲ重ヌルモノト云フベシ」というフレーズによってよく知っているはずである。ただ、このフレーズがあまりに的を得ているためか、さらに論文を讀

み進めようという気力が削がれてしまふのかもしれない。その結果、「二重の不幸」だけが一人歩きしている。しかし、この論文で展開していることは、単に「悲惨な精神病者」という甘いプロパガンダに解消できるものでは決してない。冷徹なまでのリアリズムに貫かれた描写は、精神病者とその患者の無防備で明け透けの生活状況を明らかにしている。

『精神病者私宅監置ノ實況及び其統計的觀察』は、東京帝国大学精神病学教室教授・呉秀三が中心となり、一九一〇年から一九一六年にかけて教室の助手・副手十二人に全国各地（一府十四県）の私宅監置・民間療方などの実況を調査させ、その結果をまとめたものである。この論文は、最初『東京医学雑誌』第三十二卷第十号から第十三号にかけて掲載され、ほぼ同じ頃、内務省衛生局から『精神病者私宅監置ノ實況』というタイトルで出版された。論文の中心を構成するのは、第二章の「精神病者私宅監置ノ実況」である。また、第四章の「民間療方ノ実況」では、神社仏閣における水治法や温泉での治療や民間薬、迷信が紹介されている。そして第七章の「意見」の中で、「我那十何万ノ精神病者ハ……」が登場する。「精読」にあたって第十九例をとりあげた。事例の記述は、個人や地域が特定できないように「○○縣」というように記載されているが、この例は視察者の一人であった齋藤玉男が東京帝国大学総長あてに提出した「山梨縣管下精神病者私宅監置状況視察報告」に記載されているものの一つと同一である。第十九例は山梨県の事例であったことがわかる。第十九